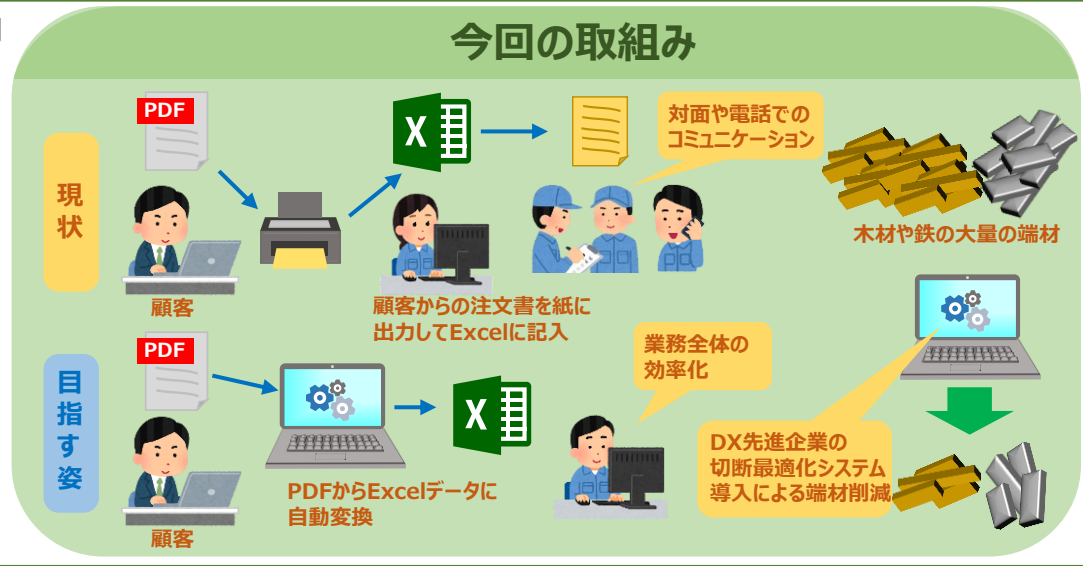


令和5年度 企業のDX推進補助金交付事業 成果報告

横尾工業株式会社「DX推進による基幹システムの再設計と画像認識」

従来、取引先からの受注を手動でExcelに入力し、紙媒体で運用管理していたため、営業、資材部、現場間のコミュニケーション手段が対面や電話に依存し、**情報の一元化が困難**であったが、新工場建設予定と共に、情報共有基盤の整備が急務となっていた。一方自社内ではデジタルについて知識・経験が乏しくデジタル化が進んでいない。その解決策として、IT系のコンサルティングを受け、**システム開発時の要件定義が自社で可能となるためのDX人材教育を受けながら、顧客からのPDF発注データを自動でExcelデータに変換**するシステム開発を行い、工程管理や作業指示の業務効率改善・生産性向上を図る。また、また木材や鉄の端材が大量に発生する課題に対して、運用改善や環境配慮が求められておりDX先進企業の切断最適化システムを導入することで、端材の最小化にも取り組む。



成果

- 取引先からのPDF形式の発注を自動的にエクセルに取り込むシステムを導入することで、**データ入力作業の大幅な労力削減と他の重要な業務への労力再配分**が出来た
木箱に貼るインボイスNoのシールも今まではPDFより1件ずつ切り取って、エクセルに貼ってシールに印刷していたが、インボイス部分も自動で切り取り表示できるシステムとなったため作業効率が大幅に良くなった

作業指示書作成 + シール作成 = 1分/枚 × 50件/日 = 50分/日
 ⇒ 取込時間 1~2分
 作業効率化 1ヵ月 48分 × 20日 = 960分/月 (16時間)

- コンサルティング会社の口利きで、DX先進企業の工場見学ができた
⇒ 切断最適化システムは現時点で自社仕様に合わないことが判明したが、社内の端材管理方法の見直し（置き方）、標識表示などの改善につながった

DX人材育成と今後の展開

- ITプロジェクトの導入と定着は時間を要するが、社内全体の協議を経ることでこれまで進まなかったDX化に関する取組みに進展が見られた
- ITコンサルティング会社には、様々な問題の洗い出し方やフローの見直し等体系的な考え方を指導頂き、これまでDX化に興味のなかった従業員も参加してもらえるようになったので、今後は各部門を巻き込んでさらなるDX化を推進し易くなった
- ただし短期間に集中してのDX化の取組みは本来業務を圧迫することにも繋がり、本事業期間のスケジュールはタイトになってしまった
今後は長期的な視野でのビジョンを重視し、事業計画にもDX化を取込み前進していくことが大切と感じた
- 目標とした自社独自でシステム開発の要件定義を行うところまでのスキルは十分に身についたとは言えないが、今回協力を得たコンサルティング会社とはデジタル化に関して気軽に相談できる人脈形成が出来たので、今後も継続した関係を保って行くことでスキルアップを図っていく